

—— 団員紹介 舞台上ではわからない演奏者の素顔（シリーズ 6） ——



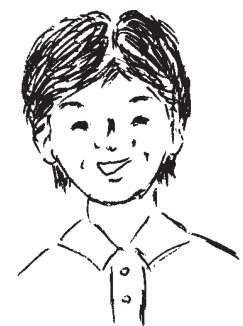
■前田 かおり [まえだ かおり] (Viola)

大阪市出身。30歳の時、友人の結婚披露宴での余興に数合わせで狩り出され、ヴァイオリンと出会う。それまでクラシックとは全く無縁だったが通っていた教室兼楽器店にたまたま楽器修理を依頼してきたご主人と知り合い結婚。その後ご主人や友人達と立ち上げた弦楽アンサンブルでヴィオラを手にしてさらに深みにはまる。40代後半を目前にし、少しでも体力があるうちにオーケストラでの演奏を経験しておきたいと、ご主人が若かりし頃在籍していた西響に2005年秋入団、現在に至る。普段は特許事務所で書類と戦うベテラン事務員。通常ヴィオラはヴァイオリンやチェロにくらべると旋律を担当することが少ない楽器だがマーラーでは、音楽の厚みや響き・迫力を増す役割以外に、音楽の流れをガラッと変えるような仕事をする場面があり、日頃目立たない楽器だけに練習から極度の緊張を強いられる。「マーラー28歳の作品であるこの交響曲は、青年期の夢や絶望、喜びや焦燥といった誰もが経験する心情を、鮮やかな色彩で絵を描くように表現していると感じます。演奏者・聴きに来て下さった皆様とこの音楽の鼓動がシンクロする瞬間を体感したいです。」本人談



■山口 宰 [やまぐち つかさ] (Contrabass)

神戸市出身。小さい頃はピアノを、中学生では朝から晩までギターに熱中。15歳のときコントラバスに出会い低音の魅力に取り付かれる。多くのコントラバス弾きがジャンケンに負けて楽器を始めるのとは対照的である。師匠は大阪フィルハーモニー交響楽団の林俊武先生。神戸高校弦楽部でオーケストラのキャリアをスタート。スウェーデン留学中も地元市民オーケストラや弦楽オーケストラに参加し、1年間で10回以上のコンサートに出演。帰国後、「何をしに行ってきたの？」とつっこまれる。1998年西響に入団、現在に至る。普段は高齢者福祉施設の館長をしながら、大学や専門学校に教えに行ったり、講演をしたり、雑誌で連載をしたり、空手道場で空手を教えたりで、本職は何かと聞かれるが、実は人間科学の博士。コントラバスというと"なんだかやたら大きくって、ひくーい音でゴーって鳴っているよく分からない楽器"と思われがちだが、実は100名近いオーケストラをしっかりと下から支える、重要な役割をしている(はず)。今回のマーラーではとってめづらしいコントラバスのソロが3楽章に登場。気をつけていないとあっという間に終わってしまうのでご注意ください。「マーラーが交響曲第1番を作曲したのと同じ28歳で、コントラバスのソロを弾けることに、何か運命的なものを感じますーと自分に言い聞かせてがんばります」本人談。



■橋口 和枝 [はしぐち かずえ] (Oboe/English horn(Cor anglais))

西宮市出身。1988年、団員に誘われ何度も西響の演奏を聴きに来るうちに一緒に演奏したくなり、当時団員募集をしていたオーボエを指揮者の岡田良機先生に習い始め入団、現在に至る。イングリッシュホルン(コーラングレ)にはそれから8年後に出会う。入団して最初の定演の指揮者が大野和士氏(現 フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者)であった。普段は、優しいが指揮棒を持たせると人格が変わる小学校教師。イングリッシュホルンを初めて吹いた時は二日続けて胸が痛くて夜中に目覚め、心筋梗塞かと思って医者に行ったら、筋肉痛と言われたことがある。今回のマーラーではそんなイングリッシュホルンで最低音を小さな音で吹くことに苦労する。「今回が西響での最後の演奏になります。一所懸命演奏しますので聴いてください」本人談。



■松舟 沙耶 [まつふね さや] (Bassoon)

加古川市出身。中学校の吹奏楽部に入団、ファゴットと出会い、高校、短大と楽器を続ける。短大1年の時に学校の授業で初めてオーケストラで演奏。その時はコントラファゴットを担当。オーケストラの面白さに惹かれ、2007年10月西響に入団、現在に至る。普段は映画館のスタッフとして加古川で勤務。ベテランが多い西響木管軍団において期待の若者の一人。「マーラーでは tutti(トゥッティ：全員で演奏する)の部分が多く、音程、音色を合わせるのが大変ですが、ファゴットの聴かせどころが多い曲なので頑張ります」本人談。

Program

フレデリック・フランソワ・ショパン Frédéric François CHOPIN (1810-49)  
ピアノ協奏曲第1番ホ短調作品11 Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11

- 第1楽章 Allegro maestoso
- 第2楽章 Romance: Larghetto
- 第3楽章 Rondo: Vivace

休憩

グスタフ・マーラー Gustav MAHLER (1860-1911)  
交響曲第1番ニ長調「巨人」 Symphony No.1 in D major, 'Titan'

- 第1楽章 Langsam, schleppend
- 第2楽章 Kräftig bewegt, doch nicht zu schnell
- 第3楽章 Feierlich und gemessen, ohne zu schleppen
- 第4楽章 Stürmisch bewegt